



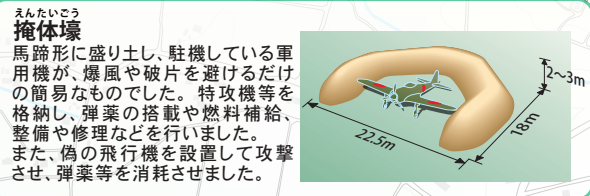
戸ノ木には、機関地の葉きょうが落ちている
今もなお、戦争の跡が見つかるんだ



76年前は戦場 陸軍浅間飛行場跡

陸軍浅間飛行場建設のきっかけは、1937年(昭和12年)に始まる大東亜戦争なかば、1941年(昭和17年)6月のミッドウェー海戦で大敗。我が国の主だった空母と艦載機を失い、その後の空母再建もままならず、南方の戦線で制空権が維持できなくなったことでした。対策として、島々に飛行場を建設し島唄いに航空路を確保する方針へ転換、徳之島では、1943年(昭和18年)10月に浅間の土地買収、翌昭和19年1月までに、島内、沖永良部島、与論島から、計2,630名の入夫が徴用され、ほぼ人力のみで昼夜を問わず工事を進め、6月に完工しました。同年10月10日に初めて米艦載機による空襲(十・十空襲)に遭い、さらに翌昭和20年3月23日以降、7月まで連日のように続きました。浅間飛行場からの陸軍特攻は8回、14名とされています。下図は編集者(山田)が、米艦載機に撮影された当時の写真を収集し、画像処理・解析して得られた飛行場の様子を、地図に落としましたものです。

※ユイの館(アリーナ)、浅間公民館横に、下記内容と同様の看板が設置されています。



もっと情報が見られる
電子版はこちら

